

第5節 生活

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

- (1) 小学校学習指導要領解説（生活編）等を踏まえ、学習指導・評価計画を作成する際の参考となるよう、指導計画の作成から学習評価の考え方を具体的に取り上げて作成した。
- (2) 具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成できる学習活動が展開できるよう具体的に示した。
- (3) 各教科等との関連を積極的に図り、低学年教育全体の充実と、中学年以降の教育に円滑に移行することを示した。

2 取り上げた内容

第1 本資料の活用について

第2 生活科における学習指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 「身近な生活における見方・考え方」を生かす指導のポイントについて
- 3 生活科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について
- 4 生活科における「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の指導と評価について
- 5 観点別学習状況の評価の観点について

第3 単元の指導と評価の計画及び改善

- 1 単元計画の作成と評価及び改善の考え方
- 2 単元の指導と評価の計画例

第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

- 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方
- 2 学習指導案の事例

3 本資料の活用に当たって配慮すること

- (1) 生活科の特質を踏まえる
生活科では、直接体験から気付きの質を高め、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指し、児童の思いや願いを実現していく学習過程を重視する。
- (2) カリキュラム・マネジメントを意識した指導計画を作成する
児童の実態や地域の特性等を考慮し、他教科との関連を図りながら、指導計画を編成していき、三つの育成する資質・能力について、どのような活動や体験の中で育まれていくのか具体的に考えていく。また幼児期の教育との連携、中学年以降の学習へのつながりを見通す。
- (3) 指導計画に即した学習評価計画を行う
指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成を生かすためには、単元の目標を明確にし、評価計画を立て、評価規準を具体的に表し、量的な面だけでなく質的な面からも捉えていく。また学習指導を通して共感的な児童理解の力を高めていき、児童の変容や成長を、単元全体の長期にわたる評価と授業時間外や家庭との連携にも目を向けていく。

4 学力・学習状況調査等の活用

埼玉県学力・学習状況調査の分析結果から、「毎年の非認知能力を高める取組が、学力の維持向上には重要」であることが分かっている。生活科においては、思いや願いを実現する過程において、自分自身の成長に気付くことや、活動の楽しさや満足感、成就感などの手応えを感じることで、一人一人の意欲や自信となっていく。この意欲や自信が、新たなことに挑戦する姿を生み出していき、自己有用感を醸成していくと考える。

指導計画作成の留意事項

編成要領（編P87）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点
- (6) 「2学年間を見通した学習活動」の視点

第2 生活科における学習指導と評価

1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

生活科で育成を目指す資質・能力を「自立し生活を豊かにしていく」と規定するとともに、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している。

	知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
教科の目標	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

2 「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かす指導のポイントについて

身近な生活に関わるとは、児童の生活圏としての学校、家庭、地域を学習の対象や場とすること、そこでの児童の生活から学習を出発させること、学習したことが、学校、家庭、地域での児童の生活に生きていくようにすることの三つの視点が含まれている。なお、身近な生活の中には、学校、家庭、地域という対象だけでなく、生活の主体である自分自身も含まれている。

身近な生活に関わる見方とは、身近な生活を捉える視点であり、身近な生活における人々、社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのかという視点である。(対象の捉え方)

身近な生活に関わる考え方とは、自分の生活において思いや願いを実現していくという学習過程にあり、自分自身や自分の生活について考えていくことである。(思考の方向性)

指導のポイントとして、見方・考え方を「生かす」という意味に着目したい。生活科以外の各教科等の教科目標においては、見方・考え方を「働かせ」と表現されている。低学年のみに設置されている生活科は、中学年・高学年の児童のように目的に応じて意図的に見方・考え方をを用いる場合のみでなく、生活科の学習過程において、児童自身が既に有している見方・考え方を無自覚的に発揮するということである。また、その学習過程において、見方・考え方が確かになり、一層活用されることを示している。そのため、他教科等と異なり「見方・考え方を働かせ」とせず「生かし」としているのは、幼児期における未分化な学習との接続を図るという意味もある。

3 生活科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について

生活科の学習指導は、これまでと同様に、児童の思いや願いを実現する体験活動を充実させるとともに、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行きつ戻りつする相互作用を意識する必要がある。そのためにも、単元などの内容や時間のまとまりの中で、多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくことで、三つの資質・能力が偏りなく実現されるように授業改善を進めていく。特に、試行錯誤や繰り返す活動の設定、伝え合い交流する場の工夫、振り返って表現する機会の在り方、さらに児童の多様性を生かし学びを豊かにするとともに、日常生活を豊かに自覚的に営む学習指導となるようにすることで、気付きの質を高めることが大切である。

4 生活科における「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の指導と評価について

主体的に学習に取り組む態度に係る生活科の評価の趣旨に照らし、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」を評価することが求められる。しかし、これら二つの側面は、実際の生活科の学びの中では相互に関わり合いながら現れるので、双方の側面を一体的に見取することも想定される。そのため、ただ単に学習に対する粘り強さや積極性といった児童の取組のみを承認・肯定するだけではなく、学習改善に向かって自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価することが必要である。このような評価規準や評価方法等の評価の方針等について、低学年児童に対しては、学習の「めあて」や「振り返り」などの分かり易い言葉で伝えるなどの工夫をし、児童が自覚しながら、主体的に学習に取り組む態度を身に付けていくことが大切である。

5 観点別学習状況の評価の観点について

生活科においては、「内容のまとまりごとの評価規準」を生活科の特質に応じた形で設定する。なお、「学びに向かう力、人間性等」の評価については、「主体的に学習に取り組む態度」を観点とした評価と「感性、思いやりなど」を個人内評価とする。

(1) 評価の観点及びその趣旨について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現している。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとしている。

(2) 内容のまとまりごとの評価規準を手順に沿って設定する例

ア 生活科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

内容(1)

学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

生活科における「内容のまとまり」の記述には、以下の四つの要素が構造的に組み込まれている。これらを踏まえて内容のまとまりごとの評価規準を作成することになる。

太実線 …児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動等

波線 …育成を目指す資質・能力のうち、「思考力、判断力、表現力等の基礎」

実線 …育成を目指す資質・能力のうち、「知識及び技能の基礎」

破線 …育成を目指す資質・能力のうち、「学びに向かう力、人間性等」

生活科における全ての内容は「～を通して（具体的な活動や体験）、～ができ（思考力、判断力、表現力等の基礎）、～が分かり・～に気付き（知識及び技能の基礎）、～したりしようとする（学びに向かう力、人間性等）」のように構成されている。

内容（※）

*****を通して、*****について考えることができ、*****が分かり、*****したりしようとする。

これは、低学年児童に、よき生活者としての資質・能力を育成していくためには、実際に対象に触れ、活動することを通して、対象について感じ、考え、行為していくとともに、その活動によって、対象や自分自身への気付きが生まれ、それらが相まって学びに向かう力を安定的で持続的な態度として育成し、確かな行動へと結び付けていくことを重視しているためである。各観点の評価規準の作成に当たっては、このような構造を踏まえて作成することになる。

イ 「観点ごとのポイント」を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

以下のように文末表現を変えることにより、内容のまとまりに対応する評価規準を作成することが可能となる。

- ・ 「知識・技能」のポイント

「実際に行われる学習活動（太実線）」に続き、「実線」部分の記載事項の文末を、「分かる」から「分かっている」としたり、「気付く」から「気付いている」としたりする。

- ・ 「思考・判断・表現」のポイント

「実際に行われる学習活動（太実線）」に続き、「波線」部分の記載事項の文末を、「考えることができる」から「考えている」としたり、「見付ける」から「見付けている」としたりする。

- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

「実際に行われる学習活動（太実線）」に続き、「破線」部分の記載事項の文末を、「したりしようとする」から「したりしようとしている」としたり、「創り出そうとする」から「創り出そうとしている」としたりする。

学習指導要領の「2 内容」及び「具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）」

学習指導要領2 内容(1)	知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
	学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かる。	学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができる。	学校生活に関わる活動を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

内容のまとめりごとの 評価規準 (例)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かっている。	学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えている。	学校生活に関わる活動を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとしている。

(3) 小単元に即した評価規準を手順に沿って設定する例

小単元に応じて重点的に評価する場面を想定し、必要な評価機会に位置付くように作成する。したがって、小単元によって、全ての「評価の観点」の評価規準が設定されない場合もある。また、複数の小単元における学習活動を対象とした評価規準が設定される場合もある。

単元 の 目 標 (例)	学校探検を通して、学校の施設や学校生活を支えている人々や友達との関わりについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、学校生活を支えている人々や友達に関心をもって楽しく生活しようとするができるようにする。		
単元 の 評 価 規 準 (例)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	学校探検を通して、学校の施設の様子や、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かっている。	学校探検を通して、学校の施設や学校生活を支えている人々や友達との関わりについて考えている。	学校探検を通して、学校生活を支えている人々や友達に関心をもって楽しく生活しようとしている。
<p>↓ 「単元の目標」、「単元の評価規準」を作成した後、「学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項」及び「内容のまとめりごとの評価規準」を参考に小単元の評価規準を作成する。</p>			
小単元 に お け る 評 価 規 準 (例)	1	学校の施設の位置や特徴、役割、学校を支えている人々の存在や働きなどが分かっている。	学校の施設の様子、教職員、友達などに関心をもって関わろうとしている。
	2	学校の施設を使用する際、みんなで気持ちよく使用するためのきまりやマナーを守っている。	
	3	みんなで学校の施設を利用する楽しさやよさなどが分かっている。	学校探検を振り返り、伝えたいことを選んで、発表している。

(4) 個人内評価の扱いについて

観点別学習状況の評価や評定には示しきれない「感性や思いやりなど」の児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、「個人内評価」として積極的に評価し、児童が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動の中で児童に伝えることが重要である。生活科においては、例えば、日常生活の場面で見られる児童の振る舞いも含めて、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に見取ることなどが考えられる。

生
活

第3 単元の指導と評価の計画及び改善

1 単元計画の作成と評価及び改善の考え方

(1) 単元の指導計画の作成に当たって

単元の指導計画の作成に当たっては、内容(1)～(9)を基にして、一連の学習活動のまとまりとして、意図的・計画的に構成される必要がある。2学年間を見通し、児童の活動や体験を相互に関連させるよう、内容(1)～(9)の組合せをしたり、単独に設定したりしていくことに留意する。

複数の内容で一つの単元を構成する場合・・・

児童の発達の段階や学習への意識を重視して単元を構成すると同時に、学校や地域の特性を生かした単元の構成を考えるようにする。その際、各内容の構成要素等を丁寧に分析し、各内容のどの部分を反映させた単元構成であるかを検討する。なお、内容を組み合わせた結果、構成内容や各内容に示された資質・能力の一部が欠けることがないように十分に注意する。

また、生活科においては、一連の学習活動のまとまりとしての単元の中で、体験活動と表現活動とが行きつ戻りつし、それを繰り返すことで気付きの質を高めていく。活動や体験が児童の思いや願いからスタートし、活動や体験を行う。そして、活動や体験を行って行く中で感じ、考えたことを適切なタイミングで伝え合ったり振り返ったりしながら表現していく過程にしていくことが主体的、対話的で深い学びの実現につながっていく。

単元を構想し、単元計画を作成する際には、次の手順で考えていくとよい。

<①発想する段階>

- 児童の興味・関心を把握する。
 - 学習対象や学習材に関わる児童の姿を想定して、それらの可能性を見いだす。
 - 具体的な学習活動を想定する。
- 「探検する」「遊ぶ」「調査する」「飼育する」「栽培する」「製作する」「交流する」「企画する」など多様な学習活動を想定する。また、「言葉や絵で表す」「劇化する」「動作化」「説明する」など、表現する学習活動を計画的に位置付ける。

<②構想する段階>

経験に基づく単元（児童の思いや願い、関心や疑問を生かす児童の活動を中心にした単元）にするか、**教材に基づく単元**（意図した学習を効果的に生み出す教師の願いを中心とした単元）にするか検討する。ただし、経験に基づくか、教材に基づくかの二者択一ではなく、両者のバランスをいかに図るかが大切である。

<③計画する段階>

発想の段階で出てきた様々な学習活動を、問題解決の流れと児童の意識の流れに沿った展開として整える作業が求められる。具体的な単元計画として実現可能かどうかを幅広く検討していくようにする。その際、学習環境・授業時数・他教科との関連・指導体制・学習形態等を視野に入れて検討していく。なお、体験活動と表現活動が相互に行きつ戻りつしているように、一連の学習活動の「まとまり」として単元化されているかどうか留意する。

(2) 単元の評価計画の作成に当たって

単元の評価計画の作成に当たっては、結果よりも活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視して行われる。それは、生活科においては特定の知識や技能を取り出して指導するのではなく、児童が具体的な活動や体験を通す中で、文脈に即して学んでいくからである。そのため、単元の評価規準及び一連の具体的な学習活動のまとまりである小単元における評価規準を具体的な児童の姿を想定して作成することが大切である。また、1単位時間での評価の大切さは言うまでもないが、生活科では単元全体を通しての児童の変容や成長の様子を捉える長期にわたる評価も重要である。単元の初めではできなかったことができるようになったり、活動に粘り強く取り組み、最後までやり遂げたり、それまで気付かなかった自分のことに目が向くようになっていくことが大切である。学習評価計画作成の際には、以下のような手順で設定するとともに、活動する中での子供の事実を捉えながら、見直しを図り指導の改善に役立てるようにする。

＜学習評価計画作成の手順＞

- ① 単元における目標を作成する。
単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認する。その後、内容における具体的な学習対象や活動に即して単元の目標を作成する。
- ② 単元の評価規準を観点別に設定する。
単元の目標を確認し、単元の目標に示された資質・能力を踏まえ単元の評価規準を作成する。
- ③ 学習活動（小単元）における具体の評価規準を観点別に設定する。
学習指導要領解説において、内容に関する資質・能力の記載事項を確認するとともに、「具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）」を参考に、小単元の評価規準を作成する。その際、単元を見通して観点ごとの偏りがないかや評価場面について確認する。

【2内容1単元「町のすてきニュースを伝えよう」（2学年、26時間）内容(3)(8) 単元の評価規準と小単元における具体の評価規準例】

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		地域に関わる活動を通して、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、身近な人々と関わることのよさが分かっている。	地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考え、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりしている。	地域に関わる活動を通して、町の人や場所に親しみや愛着をもち、適切に接したり、進んで触れ合い交流しようとしていたりしている。
小単元における具体の評価規準	1		①地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考え、活動の計画を立てたり、約束を決めたりしている。 (内容(3))	①地域の人々や様々な場所に関心をもち、適切に関わろうとしている。 (内容(3))
	2	①地域には、様々な仕事をしている人や……。 (内容(3)) ②地域で生活したり働いたりしている人々や……。 (内容(3))	この評価規準は、内容(3)と(8)の「具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）」を融合させて作成したもの	みをもって……。 (内容(3))
	3	③自分のことや町のすてきニュースが友達に伝わるよさが分かっている。 (内容(8))		②町のすてきニュースを友達と伝え合う活動について、自分なりに考えたり、工夫したり……。 (内容(8))
	4	④町のすてきニュースを町の人に伝える活動について、親しみや愛着のある人や場所が増え、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。 (内容(3)(8))	③町のすてきニュースを町の人々と伝え合う活動について、これまでの体験を基に比べたり、たとえたりして、分かりやすい伝え方を工夫している。 (内容(8))	④町のすてきニュースを町の人々と楽しく伝え合い、適切に接しながら町の人々と進んで触れ合い交流しようとしている。 (内容(3)(8))

- ④ 指導と評価の計画を作成する。
①～③を踏まえ、具体的な学習活動に沿って、評価場面や評価方法を計画する。その際、評価規準における「具体的な児童の姿」を想定する。「具体的な児童の姿」は、評価規準を学習活動レベルに落とし込んだ際に現れる児童の姿を一文で表したものであり、「おおむね満足できる児童の姿」である。
- ⑤ 学習評価簿・補助簿を作成する。
単元全体を見通して学習評価簿・補助簿を作成する。評価計画と照らし合わせながら、どのような場面でどのような方法により評価するのかを明確にする。なお、単元全体の中で評価をすることが負担とならないように、あらかじめ小単元の中で一つの評価の観点につき、一つ全児童を記録する場面を設定しておき評価を重点化するとよい。

【小単元1における補助簿の例】

番号	児童氏名	発言内容	探検する場所	活動の様子①	活動の様子②	ノート記述
1	A	町でどんな仕事をしているのか見に行きたい。 町で働いている人に質問をしたい。	消防署 警察署	同じグループの友達と役割を決めている。	自分たちであいさつの練習をしている。	僕の役割は道案内になりました。がんばります。

※上記の項目については、④で想定した評価方法に関連させてあらかじめ設定しておく、簡単に子供たちの様子を記録することができる。

(3) 授業改善に当たって

単元の評価結果を基に、資質・能力の育成の状況を適切に把握することが必要である。学習の過程が重要となる生活科の評価においては、単元全体を通しての児童の変容や成長の様子を捉え、実際の児童の姿や発言から今後の授業改善や単元構想に生かすことが求められる。

2 単元の指導と評価の計画例

**<事例1> 「身近な人々と触れ合い交流する活動を通して、自己の成長に気付くこと」をねらった事例
第1学年 「もうすぐ2ねんせい」 指導要領との関わり：内容(8)(9)**

(1) 単元の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等

低学年の児童が身近な人々と触れ合い交流する活動を通して、本単元のねらいに迫れるように単元を構成する。小単元1では、近隣の幼稚園、保育所の年長児に小学校の生活について伝えながら触れ合い交流し、小単元2では、保護者からの手紙を読むことで自分の成長に気付けるようにする。また、小単元3では、2年生にインタビューする活動を通して、進級への意欲を高めながら自分の成長に気付けるようにする。指導計画作成に当たっては、幼稚園、保育所の先生方や2年生の担任に本単元のねらいを明確に伝え、双方向でのよい活動になるように進める。

(2) 学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

本単元では、児童が自分の成長に気付き、これからの成長への願いをもって生活できるようにしていく。児童が自分の成長に気付くために、幼稚園や保育所の先生など、様々な人からの感想や意見も参考にしながら評価に取り入れていくようにする。また、本単元だけでなく、日々の生活においても一人一人の児童の成長を捉え、認めていくことを心掛けるようにする。

1 単元名「もうすぐ2ねんせい」		第1学年	学習指導要領の内容(8)(9)	
2 単元の計画		2～3月	18時間	
(1) 単元の目標				
自分のことを振り返ったり、身近な人々と触れ合い交流したりする活動を通して、伝えたいことを選んだり、自分のことを支えてくれた人々のことを考えたりすることができ、身近な人に関わるよさや自分の成長に気付くとともに、支えてくれた人々に感謝の気持ちや意欲をもって進んで触れ合い、生活しようとするができるようにする。				
(2) 学習活動（小単元）における具体的評価規準				
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単 評元 価の 規 準		自分のことを振り返ったり、身近な人々と触れ合い交流したりする活動を通して、身近な人に関わるよさや自分の成長に気付いている。	自分のことを振り返ったり、身近な人々と触れ合い交流したりする活動を通して、伝えたいことを選んだり、自分のことを支えてくれた人々のことを考えたりしている。	自分のことを振り返ったり、身近な人々と触れ合い交流したりする活動を通して、支えてくれた人々に感謝の気持ちや意欲をもって進んで触れ合い生活しようとしている。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	小 単 元 1	①新しい1年生と触れ合い交流することのよさや楽しさに気付いている。 ②新しい1年生と触れ合い交流する活動を通して、適切な挨拶や言葉遣いをしている。 ③新しい1年生と触れ合い交流する活動を通して自分の成長に気付いている。	①新しい1年生に教えてあげたいことやいっしょにしたいことを具体的に考えている。 ②新しい1年生が分かるように、伝え方を考えている。	①新しい1年生を温かく迎える準備をし、進んで触れ合い交流しようとしている。 ②新しい1年生に自分から話しかけ、学校のことを教えたり、いっしょに遊んだりしようとしている。
	小 単 元 2	④入学してから、自分が大きくなったこと、できるようになったことなどに気付いている。	③自分の生活や成長について振り返ったり、自分なりの方法で表現したりしている。	③入学してから今までの1年間の出来事について、振り返ろうとしている。 ④自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、伝えようとしている。
	小 単 元 3	⑤2年生と触れ合い交流する活動を通して適切な挨拶や言葉遣いをしている。 ⑥自分の成長、自分の良さや可能性に気付いている。	④2年生になってからの自分や自分の生活について考え、表現している。	⑤具体的な願いをもちながら、これからの意欲的に生活しようとしている。

(3) 指導と評価の計画

小単元名 (時数)	○主な学習活動 (時数)	小単元の評価 規準との関連	評価規準から想定した 具体的な子供の姿(評価方法)
<p>1 あ た ら し い 1 ね ん せ い の か い を む か え る じ ゅ ん び を し よ う (10)</p>	<p>[小単元の目標] 学校生活のことを教えたり、いっしょに遊んだりすることを通して、新しい1年生の気持ちを考え、関わることのよさや楽しさ、自分の成長に気付くとともに、進んで触れ合い交流しようとするができるようにする。</p> <p>○入学式のビデオを見て、入学した頃の気持ちを想起し、新しい1年生に教えてあげたいことや方法を話し合い、準備を始める。(1)</p> <p>新しい1年生に小学校のことを教えてあげたいという気持ちを高めるために、G、Tとして幼稚園(保育所)の先生に来ていただき、新しい1年生の今の気持ちを話してもらう場を単元の導入時に設定する。</p> <p>○「もうすぐ1ねんせいのかい」(仮称)の準備や練習をする。(4)</p> <p>児童の思いや願いから、「もうすぐ1ねんせいのかい」では、新しい1年生に小学校のことを紙芝居で紹介した後、いっしょに校庭で遊ぶことにする。</p> <p>○「もうすぐ1ねんせいのかい」に新しい1年生を招待する。(1)</p> <p>幼稚園、保育所と小学校の活動のねらいがお互いに達成できるようにするため、事前に相互のねらいを確認する。また、児童が自分の成長に気付くように適切な言葉かけや支援もお願いします。</p> <p>P104 指導計画作成の留意事項(4)</p> <p>○「もうすぐ1ねんせいのかい」を振り返り、自分たちが成長しているところを話し合い、記録カードに書く。(1)</p> <p>自分たちの成長に気付けるようにするため、幼稚園と保育所の先生に、新しい1年生の感想を聞いておいてもらい、それを児童に伝えるようにする。</p> <p>○新しい1年生を迎えるために自分たちができることを話し合い、新しい1年生を迎える準備をする。(3)</p>	<p>思・判・表-① 態-①</p> <p>思・判・表-②</p> <p>態-② 知・技-③</p> <p>知・技-③</p> <p>知・技-③</p>	<p>・新しい1年生の気持ちに共感しながら、教えてあげたいことや方法を考えている。(発言・つぶやき)</p> <p>新しい1年生の不安な気持ちや楽しみにしている気持ちに共感し、それにあった内容を考えている意見を評価する。</p> <p>・新しい1年生に学校生活のことが伝わるように紙芝居の絵や文を分かりやすく書いている。(行動・つぶやき)</p> <p>準備などを行っている時の様子や会話などから成長が感じられた時は、教師からその場で伝えることで評価につなげる。</p> <p>・新しい1年生が分かるように学校生活について話したり、気遣いながら関わったりしている。(行動・会話)</p> <p>新しい1年生のことを考えながら関わっている児童を幼稚園、保育所の先生方からもその場で褒めて認めてもらうように事前をお願いをしておく。また、会の終わりに児童たちの成長したところを話していただく場を設定し、児童が自分たちの成長に気付けるようにする。</p> <p>・新しい1年生と比べて、自分が1年前より成長しているところに気付いている。(カード・つぶやき)</p> <p>・新しい1年生のことを考えて行動できたことのよさに気付いている。(カード・つぶやき)</p> <p>体の成長だけでなく、「優しくできた」「譲ってあげた」など内面的な成長にも気付いている児童を褒めて認め、全体にそのよさを広げるようにする。</p>

<p>2 1 ね ん か ん を ふ り か え ろ う (4)</p>	<p>[小単元の目標] 入学してからのできごとを振り返る活動を通して、自分のことや成長を支えてくれた人々について考えることができ、自分でできるようになったことが分かり、成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもって生活しようとするができるようにする。</p> <p>○写真やビデオなどの手がかりを見ながら、1年間のできごとを振り返る。(1)</p> <p>様々な行事の写真や映像などを見ることで、自分の成長に気付くことができるようにするためにICT機器を活用する。</p> <p>○入学してから学習で取り組んだ作品や学習カードを見ながら、成長したところを見つけて、友達と伝え合う。(1)</p> <p>○保護者からの手紙を読み、自分が成長したところを記録カードに書く。(1)</p> <p>事前に学年だよりや懇談会で本単元の趣旨を保護者に伝え、協力していただけるようお願いしておく。</p> <p>○保護者にお礼の手紙を書く。(1)</p>	<p>態一③</p> <p>思・判・表一③</p> <p>知・技一④</p> <p>態一④</p>	<p>・写真などを見ながら、今までの1年間の様子を進んで思い出そうとしている。 (行動・つぶやき)</p> <p>「友達に優しくできるようになった」「みんなのことを考えて生活した」など、内面的な成長にも気付いている児童を認める。 ※小単元1で獲得した気付きも生かす。</p> <p>・自分が大きくなったことやできるようになったことを見つけて、友達に話している。(会話・つぶやき)</p> <p>・保護者からの手紙の内容を参考にして、自分が大きくなったことやできるようになったことを具体的に書いている。 (カード・つぶやき)</p> <p>保護者以外の人からも支えられてきたことに気付いた児童がいた時には、褒めて認め、全体にも広めるようにする。</p> <p>・これまで自分を支えてくれたことに気付き、感謝の気持ちを手紙に書こうとしている。(カード・つぶやき)</p>
<p>3 も う す ぐ 2 ね ん せ い (4)</p>	<p>[小単元の目標] 2年生の教室を訪問し、インタビューすることを通して、自分自身について考えることができ、自分の成長に気付き、これからの生活への願いを持って生活しようすることができる。</p> <p>○2年生の生活や学習について、2年生に聞きたいことを考える。(1)</p> <p>2年生にとっても自分の成長に気付くよい活動となるため、2年生の担任と相談し単元の中に設定する。</p> <p>○2年生の教室を訪問し、2年生の生活や学習についてインタビューする。(1)</p> <p>1、2年生でペアを作り、必然的に触れ合い交流する場を設定する。</p> <p>○2年生で聞いたことを友達と情報交換しながら確認し、これからの生活で楽しみなことやがんばりたいことを記録カードに書き、交流し合う。(2)</p>	<p>思・判・表一④</p> <p>態一⑤</p> <p>知・技一⑤</p> <p>態一⑤</p> <p>知・技一⑥</p> <p>態一⑤</p>	<p>・2年生への質問を具体的に考えている。</p> <p>2年生に自分から挨拶したり、丁寧な言葉づかいで話したりしている児童を、その場で褒めて認めるようにする。</p> <p>・2年生の学校生活について、自分の知りたいことを進んで2年生に聞いている。 (行動・会話)</p> <p>2年生に聞いてきたことをもとにして、具体的に考えて書いている児童を評価する。</p> <p>・2年生で楽しみなことやがんばりたいことを記録カードに詳しく書いている。 (カード・つぶやき)</p>

(3) 評価に基づく改善のポイント

地域や学校の実態やその年の状況などによって、単元の中で取り入れられる触れ合い交流する活動は変わってくる。学校や児童の実態に応じて、単元構想を修正していくことが必要である。また、本単元は特に幼保小の連携が基盤になっているので、本単元だけでなく、年間を通して連携を図っておくことも大切である。

＜事例2＞ 「自分たちの手で遊びをよりよくつくり変えたり遊びを広げたりすること」をねらった事例
 第2学年 「おもちゃランドへようこそ」 指導要領との関わり：内容(6)

(1) 単元の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等

身近にあるものを使って動くおもちゃを試行錯誤してつくり、友達と競争したり、工夫を教え合ったりしながら、動くおもちゃで遊ぶことの面白さや動くおもちゃの不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出せるようにする。

小単元1においては、夢中になっておもちゃをつくったり遊んだりすることを繰り返すと同時に、そのことを話したり書いたり伝え合ったりなどの様々な表現活動を充実させることで気付きを交流し、深める時間を設ける。

小単元2において、1年生を招待するためには、どのようにすればよいのかを友達と協力して考える必然性があるように工夫する。

なお、この単元では、国語科の順序を考えて書く学習と関連させ、自分のおもちゃが完成した時点でおもちゃのつくり方(手順)の作文を書き、単元全体の学習終了後にうまくつくるコツ(因果関係)の作文を書くようにする。

(2) 学習評価に当たっての工夫、配慮事項

本単元の中心的な学習対象・学習活動を動くおもちゃとその遊びとした上で、内容(6)の「学習活動に即した評価規準の例」を参考に、単元の評価規準を設定する。特に、友達と競争したり、工夫を教え合ったりする姿を見取るポイントとして、「動きの違いを見付ける」「予想どおりに動くように試す」「材料やつくり方を工夫する」などに着目し、評価する。

1 単元名 「おもちゃランドへようこそ」 第2学年 学習指導要領の内容(6)																
2 単元の計画 10月～12月 16時間																
(1) 単元の目標 身近にある物で動くおもちゃをつくって遊ぶ活動を通して、試行錯誤を繰り返しながらおもちゃをつくったり遊び方を工夫したりすることができ、その面白さや不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとすることができるようにする。																
(2) 学習活動(小単元)における具体的評価規準																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価規準</td> <td>身近にある物でおもちゃをつくって遊ぶ活動を通して、その面白さや不思議さに気付いている。</td> <td>身近にある物で動くおもちゃをつくって遊ぶ活動を通して、試行錯誤を繰り返しながらおもちゃをつくったり遊び方を工夫したりしている。</td> <td>身近にある物で動くおもちゃをつくって遊ぶ活動を通して、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">学習活動に即した評価規準</td> <td>小単元1 ①身近にあるいろいろな材料の特性や、おもちゃの動く仕組みなどに気付いている。</td> <td>①自分がつくるおもちゃを決め、動く仕組みを考えながら必要な道具や材料を用意し、友達と比べたり、試したりしながら、工夫してつくっている。</td> <td>①動くおもちゃについて関心をもち、道具や身近な材料などを準備して、自分なりに思いや願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。</td> </tr> <tr> <td>小単元2 ②おもちゃを改良したり、遊びの約束やルールを工夫したりすると、友達と楽しく遊べることに楽しさに気付いている。 ③みんなと楽しく遊ぶ際、道具や用具の片付け、掃除、整理整頓をしている。</td> <td>②みんなと楽しむためにおもちゃや遊び方、約束を考えたり工夫したりしている。</td> <td>②おもちゃランドで遊ぶことについて、友達と関わったり、相手の意見を尊重したりして、おもちゃを楽しくしようとしている。 ③みんなと一緒に遊ぶと楽しいことや自分のつくったおもちゃで楽しむことができることを実感しながらみんなと楽しく遊ぼうとしている。</td> </tr> </tbody> </table>		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価規準	身近にある物でおもちゃをつくって遊ぶ活動を通して、その面白さや不思議さに気付いている。	身近にある物で動くおもちゃをつくって遊ぶ活動を通して、試行錯誤を繰り返しながらおもちゃをつくったり遊び方を工夫したりしている。	身近にある物で動くおもちゃをつくって遊ぶ活動を通して、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。	学習活動に即した評価規準	小単元1 ①身近にあるいろいろな材料の特性や、おもちゃの動く仕組みなどに気付いている。	①自分がつくるおもちゃを決め、動く仕組みを考えながら必要な道具や材料を用意し、友達と比べたり、試したりしながら、工夫してつくっている。	①動くおもちゃについて関心をもち、道具や身近な材料などを準備して、自分なりに思いや願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。	小単元2 ②おもちゃを改良したり、遊びの約束やルールを工夫したりすると、友達と楽しく遊べることに楽しさに気付いている。 ③みんなと楽しく遊ぶ際、道具や用具の片付け、掃除、整理整頓をしている。	②みんなと楽しむためにおもちゃや遊び方、約束を考えたり工夫したりしている。	②おもちゃランドで遊ぶことについて、友達と関わったり、相手の意見を尊重したりして、おもちゃを楽しくしようとしている。 ③みんなと一緒に遊ぶと楽しいことや自分のつくったおもちゃで楽しむことができることを実感しながらみんなと楽しく遊ぼうとしている。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度													
評価規準	身近にある物でおもちゃをつくって遊ぶ活動を通して、その面白さや不思議さに気付いている。	身近にある物で動くおもちゃをつくって遊ぶ活動を通して、試行錯誤を繰り返しながらおもちゃをつくったり遊び方を工夫したりしている。	身近にある物で動くおもちゃをつくって遊ぶ活動を通して、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。													
学習活動に即した評価規準	小単元1 ①身近にあるいろいろな材料の特性や、おもちゃの動く仕組みなどに気付いている。	①自分がつくるおもちゃを決め、動く仕組みを考えながら必要な道具や材料を用意し、友達と比べたり、試したりしながら、工夫してつくっている。	①動くおもちゃについて関心をもち、道具や身近な材料などを準備して、自分なりに思いや願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。													
	小単元2 ②おもちゃを改良したり、遊びの約束やルールを工夫したりすると、友達と楽しく遊べることに楽しさに気付いている。 ③みんなと楽しく遊ぶ際、道具や用具の片付け、掃除、整理整頓をしている。	②みんなと楽しむためにおもちゃや遊び方、約束を考えたり工夫したりしている。	②おもちゃランドで遊ぶことについて、友達と関わったり、相手の意見を尊重したりして、おもちゃを楽しくしようとしている。 ③みんなと一緒に遊ぶと楽しいことや自分のつくったおもちゃで楽しむことができることを実感しながらみんなと楽しく遊ぼうとしている。													

生活

(3) 指導と評価の計画

小単元名 (時数)	○主な学習活動 (時数)	小単元の評価 規準との関連	評価規準から想定した具体的な子供の姿 (評価方法)
1 うごくおもちゃであそぼう(7)	<p>〔小単元の目標〕 動くおもちゃをつかって遊ぶ活動を通して、自分でおもちゃを考えることができ、材料の特性や動く仕組みに気付き、粘り強く遊びを創り出そうとすることができるようにする。</p> <p>○遊びに必要なものを考える。(2)</p>	知・技①	<p>・身近にあるいろいろな材料の特性や、おもちゃの動く仕組みなどに気付いている。(発言・つぶやき・ノート)</p> <p>・友達と教え合うことで、自分の考えたおもちゃのよさや友達のよさに気付いている。 (発言・つぶやき・相互評価)</p>
おもちゃをつくる時間を確保することで、繰り返し試したり比べたりしながらうごくおもちゃをつくれるようにする。また、つくる時には同じおもちゃの友達とグループになり、競争したり話し合ったりしながらよりよいおもちゃをつくることができるように工夫する。	○身近な材料を使って、自分のおもちゃをつくり、つくったおもちゃで遊んだり、友達と競争したりする。(3)	思・判・表①	<p>友達とどのようにして教え合っているのか対話的な活動を可視化して評価につなげる。(付箋で自分の思いを表現することができるようにする。)</p> <p>・みんなとつくったり遊んだりすると、競争したり協力し合ったり教え合ったりできて、楽しいことに気付いている。(発言・つぶやき・カード)</p>
夢中で活動していることを振り返って、自分のよさを確認したり、友達の活動をj確認してよさを見出したりする時間を設定する。	○困っていることや悩んでいることを同じグループの友達やクラスの友達と共有する。(1)	態①	<p>自分の思いや願いを実現していく過程における自分なりの工夫や友達と競争したり教え合ったりいる姿を見取るようにする。</p> <p>・困っていることや悩んでいることを付箋に書いたり、解決方法を教え合ったりしている。 (行動・発言・カード)</p>
体験活動と表現活動を繰り返し、気付きの質を高めるために、教師の働きかけや言葉掛けを工夫する。	○友達と比べたり、工夫したところを教え合ったりして、試行錯誤しながら、さらに自分のおもちゃがよりよくなるようにする。(1)		<p>・色々なおもちゃで試そうと興味をもって遊んでいる。 (発言・つぶやき)</p> <p>・どんな材料を使っておもちゃをつくらうか考えようとしている。(発言・つぶやき)</p> <p>・身近な材料を使って自分の思いや願いを実現にしようと粘り強くおもちゃづくりに取り組んでいる。 (作品・行動)</p> <p>・友達に工夫したところを伝えたり、教えてもらったりして自分なりに工夫してつくったり遊んだりしようとしている。(発言・行動・つぶやき)</p>
国語科の順序を考えて書く学習と関連させ、自分のおもちゃが完成した時点でおもちゃのつくり方(手順)の作文を書くようにする。			<p>P104 指導計画作成の留意事項(3)</p>

<p>2 みんなとあそぼう「おもちゃランドへようこそ」(9)</p>	<p>〔小単元の目標〕動くおもちゃで遊ぶことを通して、遊び方やルールを工夫しながらみんなと遊び、遊びを楽しくしようとするようにできるよにする。</p> <p>○「あそびランド」に向けて話し合う。(1) ○1年生も楽しめるようにおもちゃを工夫する。(2)</p>	<p>知・技②</p>	<p>・おもちゃを改良したり、遊びの約束ルールを工夫したりすると、友達と楽しく遊べることの楽しさに気付いている。(発言・つぶやき)</p>
<p>1年生のためにと相手意識を持たせ、グループで話し合いをすることで今までとは異なる視点でよりよいおもちゃにできるようにする。</p>	<p>○1年生と遊ぶためのルールや約束を話し合う。(2)</p>	<p>おもちゃ自体を改良したことだけではなく、遊び方の工夫をすることで楽しむことができるということも評価するようにする。</p>	<p>・遊びを工夫したり、みんなで楽しく遊んだりできる自分たちのよさに気付いている。(カード・発言)</p>
<p>また、この学習で1年生に向けて招待状を作成し、児童の相手意識ややる気をさらに高めておもちゃづくりができるようにする。</p>	<p>○1年生を招待して「あそびランド」を開く。(3)</p>	<p>知・技③</p>	<p>話し合いをしながらできるようになったことや友達のよさ、自分のよさに着目して振り返るようにし、児童の変容や成長を評価する。また、設計図を元にして行動観察や対話を加えることで評価情報を収集するようにする。</p>
<p>生活上必要な習慣や技能を身につけるために「あそびランド」の3時間は、準備・遊び・片付けとし、準備や片付けもしっかりと時間を設けるようにする。</p>	<p>○「おもちゃランド」報告会をする。(1)</p>	<p>思・判・表②</p>	<p>・「おもちゃランド」での楽しさやおもちゃや遊びの工夫をしたことで1年生を楽しませることができている。(つぶやき・カード・発言) ・みんなと楽しく遊ぶ際、道具や用具の片付け、掃除、整理整頓をしている。(行動)</p>
<p>友達のよさや自分自身の成長を自覚できるように毎時間の振り返りに加えて、単元の最後にクラスでの振り返りを設定する。</p>	<p>○「おもちゃランド」報告会をする。(1)</p>	<p>態②</p>	<p>単元の評価規準では「みんなと」となっている姿を「1年生が楽しめるように」という本時の姿に捉え直し評価するようにする。</p>
<p>単元全体の学習が終了後に、国語科の順序を考えて書く学習と関連させ、うまくつくるコツ（因果関係）の作文を書くように設定する。</p>	<p>○「おもちゃランド」報告会をする。(1)</p>	<p>態③</p>	<p>・自分たちで考えた遊びの約束やルールを言葉や掲示物などでみんなに伝えて、楽しませようとしている。(作品・行動・つぶやき) ・自分たちがつくったおもちゃで、みんなで楽しく遊ぼうとしている。(行動) ・みんなで遊んだことを振り返ったり話し合ったりしようとしている。(発言・つぶやき・カード) ・みんなと一緒に遊ぶと楽しいことや自分のつくったおもちゃで楽しむことができることを実感しながらみんなと楽しく遊ぼうとしている。(発言・つぶやき・カード)</p>
<p>P104 指導計画作成の留意事項(3)</p>			

(3) 評価に基づく改善のポイント

でき上がったおもちゃの動き方を評価しながら、今後の活動についての支援を継続していくようにする。低学年の時期に、体験を通して思いや願いを実現しながら学ぶことにより、中学年以降の学びを支える資質・能力を育成することにつながる。

第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方

(1) 本時の学習指導について

本時の学習指導に当たっては、主体的・対話的で深い学びの視点から、これまで同様気付きの質を高めることを中心に据えて構成していくことが大切である。以下、本時の学習の流れに沿って留意することを記す。

◆**学習の見通しをもつために、本時のめあてを設定・確認する。**

本時のめあてを児童の意識に沿った形で設定する。設定する際には、本時の目標との整合性を図りながら、設定していくようにする。なお、児童から出てきた言葉を使ってともにめあてを設定することも主体的に学習に向かうことにつながる。

◆**本時の中心となる学習活動を設定する。**

本時のめあてを解決するための中心的な学習活動を設定する。友達と伝え合う、教え合う、一緒につくるなど、友達と関わり、学び合いが生まれるような学習活動を設定するようにする。

◆**本時の学びを全体で共有する工夫をする。**

友達とともに活動する中で児童が考えたことを全体で共有する場を設定する。思考を可視化するために発達の段階に合わせたツールを使用したり、教師が児童から出てきた考えを板書を使って構造的にまとめたりするなど、活動する中で感じ、考えたことをまとめていくようにする。

◆**まとめたことを基に、めあてに対する自分の考えを振り返る。**

全体でまとめたことを基に文字言語で自分の考えを振り返ることができるようにする。その際、めあてを基に振り返る視点を設定するなど、一人一人が本時における学びを捉え直すことができるようにする。

◆**生活上必要な習慣や技能が身に付くように適宜指導を行う。**

道具の準備や片付け、電話や手紙を使って連絡する、手洗いをし病気の予防に努めるなど、生活上必要な習慣や技能が身に付くように指導を行う。なお、生活上必要な習慣や技能については、特定の習慣や技能を取り出して指導するのではなく、思いや願いを実現する過程において身に付けていくものであることに留意する。

(2) 本時の評価計画及び評価方法について

本時の評価計画の作成に当たっては、児童のよさや進歩の状況を的確に見取り、指導に生かしていくために、多様な評価方法を用いることが望まれる。また、評価規準から想定される本時における「具体的な児童の姿」を想定しておくことで想定した児童の姿と照らし合わせながら評価をしていくことが可能となる。以下に示すような評価方法を選択しながら評価を行う。

- ①**行動観察**…具体的な活動や体験を通すことが大前提の生活科の学習においては、活動中の児童の様子を観察し、評価していくことが欠かせない。児童の思いや願いの実現の姿は、表情や動作の中に現れる。そうした表情や動作を見逃さず継続的に観察することが大切である。
- ②**発言分析**…児童の発言やつぶやきを十分に聞き取り、内面や背景を理解する。生活科における発言には、挙手をして発表するだけでなく、つぶやきも含まれる。
- ③**作品分析**…児童にとって成就感や満足感を味わえる活動や体験がなされていれば、その思いや願いが作品に現れてくる。作品を分析することによって、そこに至った過程から児童のよさや進歩の状況なども把握することができる。作品としては、ノートや観察カード、製作物などが考えられる。作品の出来映えだけで評価することのないように注意する。
- ④**自己評価**…自分の活動を自分なりに振り返り、次の活動へと生かしていくようにすることが大切である。自己評価により次の活動への見通しをもったり、自分自身の変容に気付いたりすることができるようにすることが大切である。
- ⑤**相互評価**…友達など他者に認められたことが意欲や自信につながる。相互評価で友達のよさを取り入れたり、自分自身の活動を振り返ったりすることができるようにする。

(3) 授業改善の考え方について

本時の評価結果を基に、指導を改善し、更なる充実を図るために、本時における児童の姿で気になる児童の姿を記録し、次時の指導に生かすことができるようにする。また、児童にどのような資質・能力が身に付いたのかを適切に把握し、身に付いていなければ指導計画を適宜修正していくなど柔軟な対応が求められる。修正した指導計画は、次年度に向けて年間指導計画を見直ししていく際に活用することができるようにする。

2 学習指導案の事例

＜事例1＞ 「主体的に自己を発揮できること」をねらったスタートカリキュラムの事例
第1学年 「はじめまして ○○小」 指導要領との関わり：内容(1)

(1) 指導案作成に当たっての工夫、配慮事項等

幼稚園や保育所等と情報交換を通し、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を図る。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割を設定し、ゆったりとした時間の流れの中で少しずつ小学校での学習に慣れていくように工夫をした。

(2) 本時の評価に当たっての工夫、配慮事項等

児童が幼稚園の遊びを生かしていることを見取れるように、教師と学習支援員で、遊具遊びや草花遊びの場所を分担する。また、遊具遊びにおいて、幼稚園等の遊び方を生かしながら、友達と安全に仲良く遊べるように、ルールやマナーを守って遊んでいる児童を称賛していく。

1 小単元名 「はじめまして ○○小」(スタートカリキュラム6時間) 内容(1)

2 小単元について

- (1) 児童の実態 (略)
- (2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮 (略)
- (3) 児童の意識の流れ (略)

3 小単元の目標

友達や先生とかかわる活動や校庭を探検する活動を通して、楽しく過ごすことや遊ぶことについて考えることができ、学校の様子に気付くとともに、楽しく安心して遊んだり生活したりしようとするようにする。

4 小単元の指導計画・評価計画

(1) 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
友達や先生とかかわる活動や校庭を探検する活動を通して、学校の様子に気付いている。	友達や先生とかかわる活動や校庭を探検する活動を通して、楽しく過ごすことや遊ぶことについて考えている。	友達や先生とかかわる活動や校庭を探検する活動を通して、楽しく安心して遊んだり生活したりしようとしている。

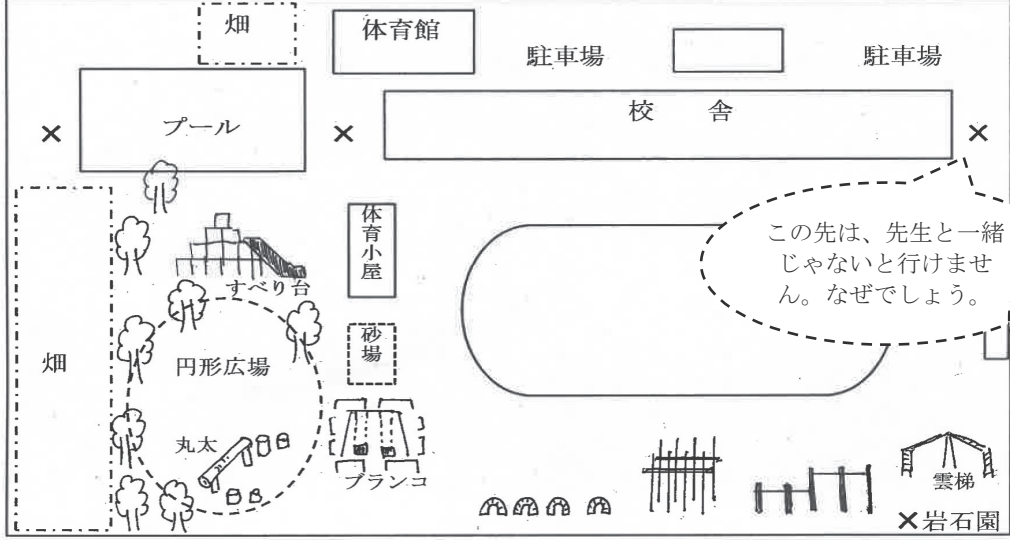
(2) 指導と評価の計画

具体的な活動 (時数)	他教科等との関連	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連
1 はじめましてこんにちは(2) ○先生や友達に自己紹介する ○友達と仲良く室内遊びをする	学級活動との関連	(1)健康な心と体 (2)自立心
2 はじめましてえんけいひろば(2) ○校庭の遊具で遊ぶ ○円形広場の春を感じ、草花で遊ぶ	体育科との関連	
3 はじめまして○○せんせい(2) ○いろいろな先生と握手する ○校舎内を探検する	道徳・学級活動との関連	

5 本時の目標

校庭を探検する活動を通して、遊具遊び、草花遊びについて考え、友達と安全に仲良く遊ぶことができるようにする。

6 本時の展開

児童の活動 ・意識	評価 (●) と支援 (○)	時間
<p>1 校庭の様子で気付いたことを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭は、幼稚園の庭よりも広いです。 ・見たことのない遊びものがありました。 <p>登校の際に見ている校庭の様子をみんなで発表し合い、児童のこれまでの経験を思い起こさせるよう工夫する。</p> <p>2 校庭に行くまでの約束やルールを確認する。</p>	<p>○登校後、体育着に着替えておくようにする。</p> <p>○体育と合科的・関連的な指導するようにする。</p> <p>P104 指導計画作成の留意事項(3)</p> <p>P104 指導計画作成の留意事項(1)</p> <p>○前日に学習した学校の決まりの確認 (廊下の歩き方、げた箱の使い方) を学習支援員と連携を図りながら進める。</p>	<p>7分</p> <p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)健康な心と体 (2)自立心 (3)協同性 (4)道徳性・規範意識の芽生え (5)社会生活との関わり (6)思考力の芽生え (7)自然との関わり生命尊重 (8)数量や図形、標識文字などへの関心・感覚 (9)言葉による伝え合い (10)豊かな感性と表現 <p>※幼稚園教育要領等参照</p>
<p>3 校庭めぐりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所にも鉄棒があったよ。 ・石がたくさんあるね。転んだら怪我するね。 	<p>○並びっこをしたり、体育朝会での活動を思い出したりしながら、順番に校庭をめぐる。</p> <p>○幼児期の経験を引き出し、遊具の使い方を考える。</p> <p>○遊具 (ブランコ・ジャングルジムすべり台・雲梯・丸太等) の使い方や子供だけで勝手に行ってはいけない場所 (駐車場や校舎裏・岩石園等) を確認する。</p> <p>幼児期の経験を引き出し、遊具の使い方や禁止場所の理由を一緒に考えていくようにして、評価につなげる。</p>	<p>10分</p>
 <p>・遊んでみたいな。</p> <p>・きれいな草花だね。</p>	<p>●幼稚園等と比べながら、似ているところや違うところ等気づいたことを話している。●(発言、つぶやき)</p>	

<p>4 遊具や草花で遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円形広場、丸太、ブランコ、ジャングルジムすべり台 ・ナズナの鈴、シロツメ草の指輪、草笛、オオバコの相撲、タンポポの風車等 	<p>○危険等が予想される遊具（ブランコ・すべり台）を学習支援員と分担して、見守るようになる。</p> <p>○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえて、活動を見守るようになる。（体育との関連）</p> <p>○見取ったことを声かけ、児童に返す。</p>	<p>15分</p>
<p>安全面や友達との関わりやすさ、教師の支援の行き届きやすさを考慮して、遊ぶ範囲（円形広場付近）を決める。</p>	 <p>並んで待っていてえらいですね。</p> <p>10回でかわってね。</p>	
 <p>すべり台は、下から登ったら危ないよ。幼稚園の先生も言っていたよ。</p>	<p>柵の外に並ばないと怪我するよ。</p>  <p>じゃんけんぼん。</p> <p>友達と仲良く遊んでいますね。</p>	
<p>見て。手みたいな葉っぱ。</p> <p>よく見つけましたね。</p> 	<p>○進んで友達に声をかけて遊んでいる児童を称賛する。</p> <p>○中々行動に移せない児童には、遊んでいる友達を観察させたり、一緒に行動したりする。</p> <p>遊具の決まりや遊び方などについて、友達に声かけている発言を評価するようにする。</p> <p>●自分がしてみたいことを見付け、楽しく遊ぼうとしている。【態】（行動、発言）</p>	
<p>5 楽しかったことや気付いたことなどを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸太で遊んで楽しかったです。 ・友達に草花の首飾りの作り方を教えてもらってうれしかったです。 	<p>○遊んだことや楽しかったことを確認するようにする。</p> <p>○ルールやマナーを守って遊べた児童を称賛する。</p>	<p>5分</p>
<p>6 教室に戻り、手洗い・うがいをし、着替える。</p>	<p>○日常生活に必要な習慣や技能を身につけることができるようにするために活動後の手洗いうがいの時間を確保する。</p> <p>○水道での待ち方を考えるようにする。</p> <p>○楽しかったことや気付いたことを伝え合いながら過ごす。</p>	<p>8分</p>

(3) 評価に基づく改善のポイント

スタートカリキュラムへの全教職員での共通理解を図り、子供たちが安心して自己を発揮できるように環境を整えて、徐々に生活科の各内容や各教科等へつなげていく。

＜事例2＞ 「家でも自立し、生活を豊かにできること」をねらった事例
 第1学年 「にっこりうれしい大きくせん」 指導要領との関わり：内容(2)

(1) 指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等

児童によって家族構成や家庭生活の状況が異なることから、各家庭や児童のプライバシーを尊重し、配慮する。家庭の理解と協力を得られるよう、懇談会で直接働きかけたり文書で知らせたりしながら、一人一人の児童の実態を踏まえ適切な学習活動をする。家庭で活動する期間も実態に応じて設定する。

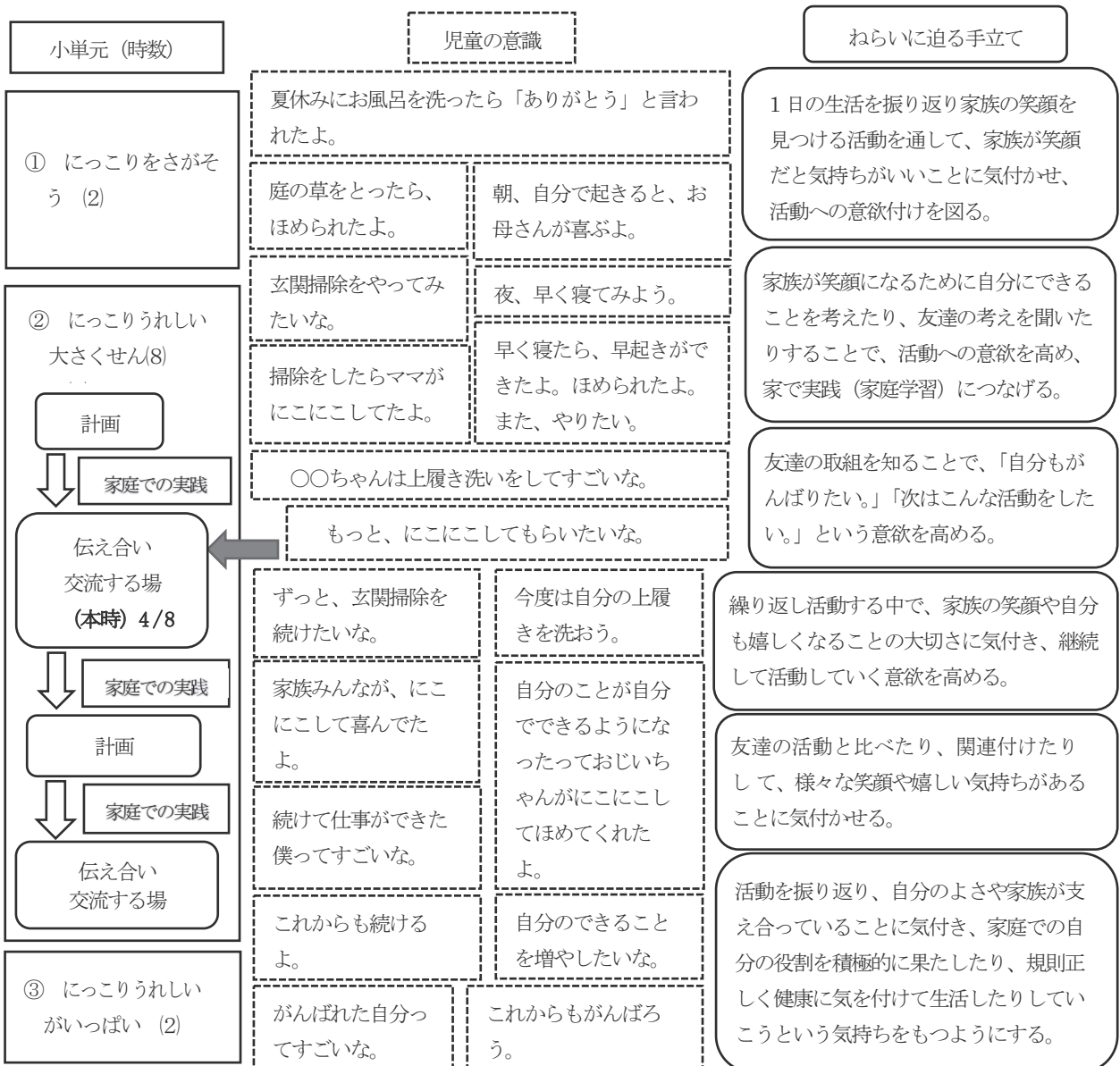
(2) 本時の評価に当たっての工夫、配慮事項等

家庭との連携を図り、活動の様子を伝えてもらうようにするとともに、家庭での実践が難しい場合は実践の場を学校に求めるなどの工夫をする。

1 単元名 「にっこりうれしい大きくせん」 第1学年 学習指導要領の内容(2)

2 単元について

- (1) 児童の実態 (略)
- (2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮 (略)
- (3) 児童の意識の流れ



3 単元の目標

家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとするができるようになる。

(1) 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		家庭生活に関わる活動を通して、家庭での生活は互いに支えあっていることが分かっている。	家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分ができることなどについて考えている。	家庭生活に関わる活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとしている。
学習活動 小単元 における 評価規準	1		①家庭生活を思い起こし、家族のことや自分のこと、自分がしていることについて表現している。	①家族のことに関心をもち、家庭生活を見つめようとしている。
	2	①家族の温かさ、家族一人一人のよさが分かっている。 ②家族の大切さや自分が家族によって支えられていることに気付いている。	②家族の存在や役割、喜ぶことを意識して、自分でできそうなことをあつめている。 ③家庭生活におけるそれぞれの役割を見直しながら、自分の取り組み方を決めている。	②家族のためにという願いをもって、自分でできることに何度も繰り返し取り組もうとしている。 ③家庭生活をよりよくするために自分の取組を見直しながら、自分の役割をはたそうとしている。
	3	③自分も家族を構成している大切な一人であることに気付いている。	④家庭生活をよりよくするために取り組んだことを振り返りながら、友達と交流している。	④生活のリズムを整えたり、健康に気を付けたりするようになった自分に自信をもって、生活しようとしている。

生活


(2) 単元の指導計画（小単元1・3は小単元の目標のみ示す）

小単元名 (時数)	主な学習活動 小単元の目標	小単元の評価 規準との関連	評価規準から想定した具体的な子供の姿 (評価方法)
1にっこり さがそう(2)			家族がどんなときになっこりするか思い起こしたり、家族に開いたりする活動を通し、家族のことや自分ができることなどについて考え、自分の家庭生活を見つめたり、自分の役割を果たしたりしようとするができるようになる。
2にっこり うれしい大 くせん(8) 本時4/8	○家族のにっこりを増やす計画を立て、実行する。 ○実行して気付いたことや分かったことを伝え合う。	態② 思・判・表② 知・技① 態③ 思・判・表③ 知・技②	・家族のにっこりのために自分のできることを見つけている。(発言・カード) ・家族のにっこり、うれしいのためにできることを繰り返し家庭で取り組んでいる。(行動・発言・記録) ・家族のにっこりうれしいのために取り組んだことから、家族の温かさや家族一人一人のよさが分かっている。(発言・記録) ・家族のにっこり、うれしいのために自分が実践して気付いたことや分かったことを動作や言葉で伝えている。(発表の様子・つぶやき) ・家族や自分のしていることが、家族のにっこり、うれしいにつながっていることを発表したり、カードに記入したりしている。(発表・カード・つぶやき)
3にっこり、 うれしいが いっぱい(2)			家庭生活に関わる活動を振り返ることを通して、家族のことや自分ができることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとするができるようになる。

5 本時の学習指導

(1) 目標（6/12時）

○家庭生活に関わる活動を通して、家庭の温かさや家族のよさ、自分の役割に気付くことができるようになる。

(2) 展開		時間
児童の活動・意識	評価 (●) と支援 (○)	
<p>1 本時の活動を確認する。</p> <p>○にっこりうれしい大きくせんをしたことをつたえあおう。 ・きづいたこと・よかったこと ・つぎにやってみいたいこと</p>	<p>○各自の活動内容について把握し、活動の方向性について見通しておく。</p> <p>○今までの活動の様子の絵や写真を掲示し、伝えたいという意欲を高める。</p>	3分
<p>2 にっこりうれしい大きくせんをして、気付いたこと、よかったことを友達と伝え合う。</p> <p>朝毎日、一人で起きたら家族みんながにっこりしたので、うれしくなりました。</p> <p>児童の意識を吹き出しで示している例</p> <p>妹の世話を毎日したら、おばあちゃんがにっこりしてほめてくれました。うれしかったです。</p> <p>玄関そうじは、玄関の隅まで掃くと、きれいになって、お母さんがにっこりしました。</p> 	<p>○友達の発表を聞く視点を児童に伝え、視点について伝え合いができるようにする。</p> <p>○体験活動と表現活動を繰り返すことで、新たな意欲や気づきが生まれるようにする。</p> <p>○同じことに取り組んだ児童同士で比べたり、取り組んだ内容について比較させたりする。</p> <p>○にっこりうれしい大きくせんをして、気付いたこと、よかったことについて伝え合っている児童を認め価値付ける。</p> <p>○実演、絵、ペープサート、写真、動画など児童の思いを生かした方法で発表させる。</p> <p>○家庭での活動の様子をクラスで共有し、次の活動への意欲を高める。</p> <p>家庭での活動の様子を、デジタルカメラ・タブレット型端末などで撮影してもらい、タブレット型端末やプロジェクターなどを使い伝え合う。(ICTの活用)</p> <p>○お手伝いだけでなく、自分でできることは自分ですること、生活のリズムや健康に気を付けた暮らしに着目した児童を価値付け、クラスに広めるようにする。</p> <p>○児童によって家族構成や家庭生活の状況が異なることから、各家庭や児童のプライバシーを尊重し、配慮する。家庭での実践が難しい児童には、実践の場を学校とする。</p> <p>○伝え合うときの声の大きさ、話の聞き方については国語科と関連させて指導する。</p> <p>P104 指導計画作成の留意事項(3)</p> <p>○特別活動・学級活動(2) (係の仕事) と関連させて扱う。</p> <p>○道徳 (家族愛・勤勉努力) と関連させて扱う。</p> <p>P104 指導計画作成の留意事項(5)</p>	32分
<p>3 友達の発表を聞いて次に自分が家族のにっこりのためにやってみいたいこと、自分がうれしくなれそうなことを考えてカードに書く。</p> <p>自分の活動が家族の笑顔につながっていることに気付いた児童を価値付ける。</p>	<p>○カードを書くことで、次に自分のやってみいたい活動への思いをもたせる。</p> <p>●自分の活動したことが家族のにっこりやうれしいにつながっていること、家族の温かさやよさに気付いている。【知・技①】</p>	5分
<p>4 家の人からのメッセージビデオを見て、本時の活動を確認する。</p>	<p>○メッセージビデオを見ることで、これからも継続して自分にできることをしていこうという思いをもてるようにする。</p> <p>○事前に単元のねらいを保護者に説明し、メッセージは児童の取組を喜び称賛する内容となるようにする。</p> <p>○今後の活動の見通しがもてるようにする。</p>	5分

(3) 評価に基づく改善のポイント

実践の場が家庭であるので、年間を通して家庭との信頼関係を築き、子供のよい点を知らせてもらうよう工夫する。

＜事例3＞ 「冬の自然や季節の遊びを楽しみながら児童が自ら活動を工夫していく」事例
 第1学年 「ふゆをたのしもう」 指導要領との関わり：内容(5)(6)

(1) 指導案作成に当たっての工夫、配慮事項等

単元の前半（小単元1・2）では、冬の自然に目を向けて体全体で感じ取って遊んだり、季節（正月）の遊びを体験したりする中で、友達や家族、地域の人などいろいろな人と関わっていく。

単元の後半（小単元3）では、それらの活動や体験、人との関わりを生かし、自ら遊びを工夫して創り出していけるようにする。

(2) 本時の評価に当たっての工夫、配慮事項

児童一人一人が自分の思いや願いを生かして遊びを工夫する過程で、「ぼくのけん玉を自分でつくって遊びたい。」「風が吹いたらたこを高くあげたいな。」「みんなで楽しく遊べるお はじきのルールを考えよう。」という姿や考え、自分の思いや願いをかなえようとする意欲や粘り強い姿を見取り、評価につなげていく。

1 単元名 「ふゆをたのしもう」 （18時間） 第1学年 学習指導要領の内容(5)(6)				
2 単元について				
(1) 児童の実態 （略）				
(2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮 （略）				
(3) 児童の意識の流れ （略）				
3 単元の目標				
冬の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、冬とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができ、冬の自然の様子や秋から冬への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しんだり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。				
4 単元の評価規準と小単元における具体的評価規準 （1～2月 18時間）				
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	単元の評価規準	冬の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、冬の自然の様子や秋から冬への変化、それを利用した遊びの面白さに気付いている。	冬の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、冬とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	冬の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりしている。
小単元における評価規準	1	①冬の自然の様子や特徴、寒いときでも遊びを工夫して楽しめることに気付いている。	①諸感覚を生かして身近な冬の自然を観察し、寒いときでも楽しくできる遊びを工夫して考えている。	①体全体を使って冬の自然と触れ合い、冬の自然を利用した遊びをしようとしている。
	2	②自分たちの生活には、季節にちなんだ遊びがあることに気付いている。 ③約束やルールを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。	②友達、家族、地域の人と関わりながら季節の遊びを工夫して楽しんでいる。	②思いや願いをもって、友達、家族、地域の人と関わりながら楽しく遊ぼうとしている。
	3	④冬の季節の遊びの楽しさや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。 ⑤みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。	③比べたり、試したり、見立てたり、繰り返したりしながら、冬の季節の遊びを工夫し、楽しんでいる。	③みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。 ④冬の自然や季節の遊びを取り入れ、自分たちの生活を楽しくしようとしている。

生活

5 指導と評価の計画（主に小単元3について）

小単元名	主な学習活動		
1 ふゆのしぜんであそぼう (6)	冬の校庭や公園で、自然を観察したり、季節を感じながら冬探しをしたり、冬の季節に合った遊びを考えたりして、遊ぶ。		
2 お正月のあそびをたのしもう (4)	お正月の遊びに関心を持ち、教えてもらったり楽しい遊び方を考えたりして、遊ぶ。		
3 たのしいあそびをくふうしよう (8)	主な学習活動	小単元の評価 規準との関連	評価規準から想定した具体的な子供の姿 (評価方法)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> [小単元の目標] 冬の自然や季節の遊びを生かして遊ぶ活動を通して、遊びを工夫することができ、その面白さに気づき、自ら遊ぶ活動を創り出そうとすることができるようにする。 </div> <p>○好きな遊びや関心をもった遊びの工夫を考えたり、新しい遊び方を考えたりして、楽しむ。(6) <u>(本時 2/6)</u></p> <p>○楽しかった遊びや工夫した遊びを友達と伝え合う。(2)</p>	知・技④ 思・判・表③ 思・判・表③ 思・判・表③ 態③ 態④ 態④ 知・技⑤	・遊びを工夫する楽しさを、言葉で伝えている。(発言・カード) ・遊び方を友達と比べて、遊ぶ物を改良している。(行動・発言・作品) ・冬の自然の特徴を生かして試しながら、遊ぶ物を作っている。(行動・発言・作品) ・遊びの経験を生かして、身近な材料を使って遊ぶ物をつくっている。(行動・発言・作品) ・遊びを楽しみたいという願いを持ち、粘り強く遊びを試そうとしている。(行動・発言) ・楽しかったこと、工夫したことを伝えようとしている。(行動・発言) ・遊びの工夫や友達との関わりのよさや楽しさを、相手に伝えたり記録したりしようとしている。(発言・作品・カード) ・道具や用具の準備や片づけをしている。 (毎時間の活動中の行動観察で見取る)


6 本時の学習指導

(1) 目標

考えた遊びをさらに改良したり、友達と教え合ったりする活動を通して、遊ぶものを工夫してつくり出すことができ、楽しみながら遊びを創り出すことができるようにする。

(2) 展開

児童の活動・意識	評価 (●) と支援 (○)	時間
1 本時の活動を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ふゆのあそびをくふうしてたのしもう。 </div>	○各自の活動内容について把握し、活動の方向性について見通しておく。 ○本時の活動が楽しみになり、意欲が高まるよう、前時の活動の様子を写真や動画で提示する。	2
2 工夫している自分の遊びを紹介し、本時のめあてをもつ。 ・みんなで楽しく遊べるビー玉あそびのルールを考えているよ。 ・ぼくは、カップを使ってけん玉を作っています。手作りけん玉の名人になるよ。 ・長く回るこまがもうすぐできそうだから、完成させて友達と競争したいです。 ・きょうは風が弱いから、どうやっておもちゃを試したらいいかな。	○紹介しやすいように場の工夫をする。 ○自分の遊びだけでなく、友達の遊びにも関心をもてるようにする。 ○自分が考えたり工夫したりしている遊びを、友達に分かりやすく紹介している児童を称賛し、広める。 ○自分の遊びのよさ・楽しさだけでなく、うまくいかなくて悩んでいるところをみんなに相談してよいことを伝える。	8
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 自分の遊びをお互いに紹介し合うだけでなく、悩みがあればそれを共有し、解決方法を一緒に考えることにより、より主体的に活動できるようにする。 </div>		

<p>3 冬の遊びがさらに楽しめるように、新しい遊び方を考えたり、改良したりする。</p> <p>-----【遊びの工夫】-----</p> <p>ビー玉あそび お手玉</p> <ul style="list-style-type: none"> 玉をころがしていく おばあちゃんに教わった技ができた。 ビー玉の握り方をマスターするよ。 自分の遊び方を考えてやってみよう。 <p>-----【ふれあい広場で冬の遊びを工夫】-----</p> <p>たこ</p> <ul style="list-style-type: none"> わたしの折り紙だこは形が面白いよ。 もっとよく飛ぶように糸のつけ方を直そう。 <p>-----【遊びを生かしたおもちゃ作り】-----</p> <p>手作りけん玉</p> <ul style="list-style-type: none"> カップの数を2つから3つに増やしたほうがおもしろそう。 玉を、しっかりひもにつけよう。 <p>手作りこま</p> <ul style="list-style-type: none"> 長く回るようになったよ。 きれいな模様をかこう。 <p>竹トンボ</p> <ul style="list-style-type: none"> 遠くまで飛ぶようになったよ。 紙トンボを作ってみよう。 <p>遊びを工夫する中で、遊んだり試したりできる場所を選ぶよう、また、似たような遊びの工夫をしている子供が互いに学び合えるよう、広い空間を活動の場として設定する。</p> <p>竹トンボと紙トンボの飛び方の違いを比べながら、遠くまで飛ばそうとしている姿を見取る。</p> <p>竹トンボと手作り紙トンボで飛ばし合いをして比べる姿</p> <p>4 本時の活動を振り返り、次の活動への意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ようじの長さを変えたら、手作りごまが長く回るようになって、うれしいです。見てください。 〇〇さんが風の向きを教えてくれたから、遊びを試すことができました。 次はもっと工夫して遊んでみたいです。 <p>5 後片付けをする。</p>	<p>○活動していく中での工夫のよさや面白さを認め励ます。</p> <p>○材料や用具置き場の設定を安全面や遊びやすさの面から工夫する。</p> <p>●遊びをより楽しくしようと没頭している。</p> <p>【熊-③】</p> <p>ぐにやぐにや凧を作って揚げた体験を生かし「折り紙だこ」を作ることに挑戦した児童。作り終わって試したらすぐに破けてくるくる回っていた。破けたところを直しては試し、回って飛んでいるのを見ては、楽しんでいた。粘り強く作り、高く揚がらなくてもそのくるくる飛ぶ様子に面白さを見出ししている姿を見取る。</p>  <p>粘り強く作り直しては試す姿</p> <p>○進んで友達に声をかけ、教えたり教わったりして遊びを楽しもうとしている児童を称賛する。</p> <p>P104 指導計画作成の留意事項(2)</p> <p>○友達と関わって遊ぶ中で新たに分かったことを自分の遊びの工夫に生かせるよう、励ます。</p> <p>○遊びや遊びの工夫がうまくいかない児童には、前時までの経験を思い出させたり、似た遊びをしている児童を紹介したりして、少しでも気付いたり考えたりしながら楽しく活動できるよう、励ます。</p> <p>○用具の使い方や場の使い方等、安全に活動できるよう、注意深く見守る。</p> <p>●遊び方を比べたり、試したり、繰り返したりして、よりよいものに改良している。</p> <p>【思・判・表-③】</p> <p>○遊びを工夫したり、友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り表現している姿を称賛する。</p> <p>○今後みんなで「ふゆをたのしむあそび大会」を開くことを提案することで、今後の活動の見通しがもてるように、また意欲を高められるようにする。</p> <p>○手際よく片付けられるよう、助言する。</p>	<p>25</p> <p>5</p> <p>5</p>
---	--	-----------------------------

(3) 評価に基づく改善のポイント

試したり、繰り返したりして遊びを工夫する姿や、遊びの楽しさ・おもしろさに気付く姿、友達と関わり合う姿を、本時の児童の具体的な姿から見だし、評価につなげる。また、2学年間を見通し、2年生でも内容(6)に関わる学習活動を扱うと、遊びや遊びの工夫がより発展することが期待できる。